

令和元年度定時社員総会

総務委員会

(一社)東北地質調査業協会の令和元年度総会は、令和元年5月23日に仙台市宮城野区の「仙台ガーデンパレス」に於いて開催されました。会員総数49社の内、出席35社、委任状提出14社で過半数以上の出席が得られました。

総会は、高橋理事長の挨拶に始まって平成30年度の事業報告と収支報告の審議、役員改選に引き続いて令和元年度事業計画案と予算案、創立60周年記念事業についての報告が行われました。以下に概要を報告します。

1. 理事長挨拶

皆様こんにちは、本日は大変暑い中、そしてお忙しい中、定時社員総会にご出席いただきましてありがとうございます。理事長の高橋でございます。

つい3週間ほど前に年号が変わり、令和と言う新しい時代が始まりました。年号が変わった当初は新年を迎えたような、これから輝かしい時代が始まるような、ある種期待を持てるスタートが切られたような思いがありました。ところで我々の仕事はどうかと言いますと、東日本大震災から8年が過ぎて、震災に直接関わる我々の役割は大幅少なくなってきた現状です。しかし、異常気象による災害は毎年各地で発生しております。昨年の西日本豪雨災害、北海道胆振東部地震による斜面災害など、災害が多く発生しており我々の活躍の場も増えてきていると言えます。

地質リスクについて我々は国にリスク対応の重要性と必要性を、長年訴えてきておりますが、国もこれに本腰を入れ始めました。昨年4月の国土地盤情報センターの設立はその成果と言えます。センターは国土交通省から「第三者機関」として認定され、国発注工事のボーリングデータは、全てセンターの検定を受けることが義務付けられました。そして、集約されたデータを共有することによって、今後の災害時あるいは防災に役立てて行こうという動きが始まっています。昨年から1年間これを運用して来た中で、われわれ地質専門業者と無資格者のデータの質の差が歴然であることが明らかになっております。地質リスクへの対応は、地質調査技士や地質情報管理士等の資格を持った地質技術者が当たる必要性が認められてきており、これは我々の地位確立の大きなチャンスと言えます。

また、働き方改革と言うことで、休みを増やす等の職場環境改善について取り組んでいらっしゃると思いますが、これを実行するには、同時に生産性を向上させなければ会社経営は成り立たちません。生産性向上のためICTへの取り組み、地質業界で言えばCIMによる地質の三次元化が一つの方法ではありますが、それだけではなくどうやって生産性を向上させていくか真剣に取り組んで行く必要があると思っています。

最近ある会合で「地質調査ってどういうことをするの?」と聞かれました。地質調査はまだまだ世間では知られていない業種なんだとつくづく感じた次第です。これからもっと知名度向上のために、我々は努力しなければならないと思います。皆様のご協力をお願いします。

本日の総会は役員改選も議案に入っております。私は3期6年間理事長を務めさせていただきましたが今回の改選で理事長を降りることになります。前任の早坂理事長からバトンを受けて、任期中に秋田での技術フォーラム開催、協会の社団法人化、また「匠」東北を制定できたのは皆様のお力添えの賜ですが、思い出として残っています。今後と

.....

も一協会員として皆様と一緒に頑張って行きますので引き続きよろしくお願いたします。

今日はこの後、総会で色々ご審議いただきますが、是非関連なご意見をいただいて議事を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いたします。

2. 議事

議長：高橋理事長

議事録署名人：東北ボーリング(株)

伊藤 握 氏

明治コンサルタント(株)仙台支店

米川 康 氏

第1号議案 平成30年度事業報告

会員に関する報告が事務局長からあった。

平成30年4月1日現在で48社。平成31年3月31日現在は1社増の49社。賛助会員については平成30年4月1日現在で11社、平成31年3月31日現在も変わらず11社。

役員及び委員会に関する報告では、役員については平成30年総会後の変更はなく理事14名、監事2名で構成。委員についても変更はなく、総務委員会9名、技術委員会11名、広報委員会8名で構成されていることが報告された。

引き続き事務局長より「各種事業に関する事項」の中で全地連に関する事項として、総会・理事会・事務局長会議・各種委員会・その他事項に関する報告があり、東北地質調査業協会に関する事項では各委員長からそれぞれの委員会に関して報告があった。

第2号議案 平成30年度収支会計報告及び監査報告

第1号議案に引き続き平成30年度の収支決算について事務局長より報告があった。

続いて加藤一也監事から、収支の諸資料を精査した結果、決算が適正かつ妥当に行われているとの監査報告があった。

以上、第1号議案、第2号議案について異議なく承認された。

第3号議案 役員改選の件

理事は原田理事の異動に伴う江本理事への交代以外は全員再任。また現監事の早坂功氏が顧問に、早坂監事の後任として白鳥文彦氏が選任された。また、理事長及び副理事長は選任された理事より互選され、理事長に奥山清春氏、副理事長に太田史朗氏と橋本岳社氏が選任された。

令和元年度役員改選人事

役 職	新 役 員	
理 事 長	奥山清春	
副理事長	太田史朗	
副理事長	橋本岳社	
青森県選出 理事	大泉開発(株)	坂本興平
岩手県選出 理事	旭ボーリング(株)	高橋和幸
宮城県選出 理事	川崎地質(株)北日本支社	太田史朗
//	(株)アサノ大成基礎エンジニアリング東北支社	寺田正人
//	土木地質(株)	橋本岳社
//	東北ボーリング(株)	熊谷茂一
//	(株)復建技術コンサルタント	遠藤敏雄
//	応用地質(株)東北事務所	江本 満
//	基礎地盤コンサルタンツ(株)東北支社	仲井勇夫
//	(株)ダイヤコンサルタント東北支社	齋藤 勝
//	中央開発(株)東北支店	三浦正人
秋田県選出 理事	奥山ボーリング(株)	奥山信吾
山形県選出 理事	(株)新東京ジオ・システム	奥山清春
福島県選出 理事	新協地水(株)	佐藤正基
監 事	(株)サトー技建	加藤一也
監 事	(株)東北地質	白鳥文彦
顧 問	(株)テクノ長谷	早坂 功

報告事項1 令和元年度事業計画(案)

令和元年度の事業計画(案)及び主たる行事予定について、事務局長及び各委員長より説明があった。

報告事項2 令和元年度収支予算(案)

事務局長から、令和元年度予算について正味財産増減予算書の説明があった。

報告事項3 創立60周年記念事業について

東北地質調査業協会は、昭和34年(1959年)1月に設立され、本年で60周年を迎えた。これを記念して11月7日に記念行事を予定しており、その概要について事務局長より説明があった。

その他

総会終了後、匠制度における認定者2名の表彰式が、総会会場にて行われました。その後3協会合同の懇親会場に席を移し奥山清春新理事長挨拶の後、来賓の国土交通省東北地方整備局企画部技術開発調整官の亀井督悦様よりご挨拶を頂き、(一社)斜面防災対策技術協会東北支部長の熊谷茂一氏の乾杯発声で宴会となりました。各テーブルでは近況や新年度の抱負を話しあうなど、各協会員相互の親睦を深め、大いに盛り上がりました。最後に(一社)全国さく井協会東北支部長の平山清重氏の締めでお開きとなりました。